

目標におかかって力を合わせる!!

パートナーシップとは、W.Coと生活クラブ虹の街組合員・職員の三者が連携、協力し、同じ事業目的を達成する気持ちとその仕組みです。

2015年の生活クラブ虹の街の大きな方針に、組合員拡大と生活支援の拡充があります。各組織が単独よりも、三者の知恵と情報共有、連携から、目標を達成していくことが必要です。

参加者は職員組織からは専務理事をはじめとする各所属長、組合員組織からは理事長をはじめとする理事の方々、W.Coからは虹の街の受託事業所のワーカーズで、約60名での開催でした。

各組織の理解を深めるために組合員組織から岩上副理事長、職員組織から樋口業務部長、W.Coから風間副理事長が、それぞれの組織について説明しました。

その後は9~10人ずつ虹の街の組織に沿って6ブロック別に、現状の確認と今後に向けた具体的な連携活動についてのワークショップを行い、それぞれの代表者に発表していただきました。

最後に木村理事長からは「今までの受託部会は『利用結集』が大きなテ



マでしたが、今回は『組合員拡大』、『生活支援』の二大テーマとしたことに敬意を表します。虹の街の政策をよく理解していることを強く感じました。その意味ですでに連携できていると思います。更なるステップアップに向けていきたい。組合員拡大と一緒に働くワーカーズを増やすということに繋がると思います。益々のワーカーズの発展に向けてパートナーシップで活動していきましょう」との言葉で、2015年度の活動に期待が高まる学習会となりました。

(企)わーかーず・あい 安岐幸子



拡
大

千葉ブロック：チラシまき、友達紹介、移動販売、企画での消費材のアピール。三者の話し合い。「カッコイイ」を目指して。

松戸ブロック：「Mart' Do」(マートドー)と自称。三者の協力で安心、安全を地域や子育て世代をはじめ、幅広い世代にアピールしていきたい。

柏ブロック：目標達成のためにメンバー全員で計画の実行、点検。キャラバン、チラシまき、Web・Facebookの活用。消費材を知り語っていく。F・E・C(食・エネルギー・環境問題)の視点でアピールする。大津ヶ丘デポーは拡大企画でアピール。

生
活
支
援

市原ブロック：必要なものは人とお金。情報共有。理想はエコロおたすけ隊からW.Coメンバーになること。更にデポーができたという妄想を描いている。

ベイブロック：デポーは居場所支援、買い物支援。配達しながらでも支援はできる。人の繋がりを大切に、子育て支援も必要。組合員の力を繋げて、活動メンバーを増やす。

佐倉ブロック：移動販売、お届けサービスが必要。犬の散歩、通院の付添など三者の協力で作る。居場所づくりは椅子1脚からでもすぐできるので、担い手創りからW.CoういすやVAICと協力をしていくことができる。

会費プロジェクト報告

会員事業所の単位で納入されるW.Co千葉県連合会の会費について、その算定方法と根拠などについて、プロジェクト(PJ)を立ち上げ、半年間5回にわたって議論しました。

各事業所や会員メンバーにとって必要な連合会機能を改めて確認し、そのために必要な活動資金を公平に集めることを視点に検討しました。

多様な事業や経営内容の中で算定していくことは難しい作業ではありましたが、「事業所均等割」「出資人数(W.Co人数)」「人件費」という「経営・出資・労働」の三位一体となった考えに基づいて作成したものです。事業所や会員にとって会費を捻出することは大変なことです。連合会活動を自分たちのものと捉え、思い描く街づくりに向けて活用していくこともあわせて確認したプロジェクトでした。

2月に答申としてまとめ、細則として総会で確認し、2015年度から新たな会費となりました。 会費プロジェクトメンバー：風間由加

<会費PJメンバー>

北田(座長) 風間・江口・熊澤(東葛エリア) 渡嘉敷(京葉エリア) 長谷川(下総エリア) 西脇(食部会) 浜(受託部会) 高野(福祉部会) 鳴島・保田(事務局)

総会で出された主なQ&A

Q：決算で約200万円の剰余が出た理由は？

A：①共同購買事業が伸びた。②エコロ生活支援制度の委託費やワコレ共済の事務手数料収入が予算以上。③理事の欠員により事業人件費が予算よりも少なかった。

Q：共同購買事業の伸びが大きかったが、配送ワーカーズに還元される予定はないのか？

A：今年度、受託部会の中で配送経費について調査し、次年度にむけて検討していく。

Q：予算の基金準備金100万円の根拠は？

A：基金創設については第二次中期計画に記載されています。昨年度の会費プロジェクトの中でも基金の必要性が議論されたので、今年度の剰余が出たことから一旦その枠を設け、基金プロジェクトを立ち上げて、内容については今後検討していきます。

わくわくwork ちば

NPOワーカーズコレクティブ千葉県連合会

No.104
2015.7

ワーカーズ・コレクティブ(W.Co)とは…

同じ目的を持った仲間が作り出す、地域に有用な事業/出資・労働・経営を全員で担う/働くことを通し、社会的・経済的・精神的自立をめざす

W.Coの価値を確認して地域に発信!

5/27 <第16回通常総会報告>

W.Coが千葉で誕生して30年。この先の5年、10年を見据えると確かな発信力・提案力を身に着け安定した働き場を興し、事業と運動を繋いでいくことが求められます。2015年度はW.Co自信が自らの価値を見つめ、発信していく1年にしていきましょう。

1 事業計画

- ①多種多様なインフォーマルサービス事業や「子ども・子育て支援制度」に対応する事業の創設を検討していきます。
- ②W.Coの内実を高め事業力の強化のため、食部・受託・福祉の専門部会とは別に「地域コミュニティ委員会」を新設し、W.Coの総合力を高めていきます。
- ③その人に沿った働き方の支援と労働力が適正に評価される仕組みづくりを行います
- ④生活クラブ千葉グループ・WNJ*と連携して活動します。東京で開催されるWNJ全国会議へ大勢で参加します。
- ⑤機関紙わくわくを年3回発行します。HP、ブログ、facebookを活用して情報を発信します。
- ⑥W.Co法とW.Coの社会化の学習を行います。

2 エリア活動：京葉・東葛・下総エリアの拠点活動を充実します。



北田理事長(中央)

- 3 組織運営計画：理事長、副理事長(2名)、3エリア(東葛・京葉・下総)と3部会(食2名)・受託・福祉)・コミュニティ委員会を担当する理事11名で理事会を構成します。(選出は10名)
- 4 事務局計画：事務局機能を高めるための本部事務局とエリア事務局の連携。
- 5 経営計画：会費PJ答申に沿った会費収入の確保。福祉事業部の設置による福祉事業収入による経営の拡充を目指します。

*WNJ：ワーカーズコレクティブネットワークジャパンの略称

★W.Coの価値を確認しよう! <学習会報告>★



W.Coの働き方は協同社会の研究材料になるか?

ワーカーズコレクティブ千葉県連合会総会の学習会は、千葉大学で賀川豊彦氏*に関連した研究、協同組合・フードバンク活動の支援をされている伊丹謙太郎先生をお迎えして開催しました。

学習会は事前にとったアンケートに沿って意見を出し合うワークショップ形式で、伊丹先生がナビゲーターとして参加者の意見を引き出すこの形式は初めてでした。

アンケートの内容は深く考えさせられるものでしたが、「ワーカーズの活動を次世代に繋げていくためには」など、身近に感じるものもありました。

1984年に千葉県で最初のワーカーズが立ち上がり、創立当初の目的は女性の地位向上など、金銭的報酬以外のものの割合が大きかったのですが、時代や環境の変化とともにワーカーズとしての働き方も変わってきて、労働の対価(金銭的報酬)のみを目的とする傾向も見えてきました。時給が低いなどの理由から後継者が育たないという悩みもあります。

ワーカーズ同士世代を超えて、守るべきところと変えるべきところを皆で議論することが必要です。

これからの課題を解決することの難しさも感じましたが、ワーカーズとして働くことの良い点をどう認めて広げていくか、皆で考える機会となりました。

広報委員：野上美佳

*香川豊彦：労働運動、農民運動、生活協同組合運動などにおいて重要な役割を担った人物。日本農民組合創設者。